

たのは、部門、スタッフの主導的役割と小規模でもって個人的に行われたが、この状況は利用者に対する情報提供及び教育的サポート面から理想的でなかった等、CD-ROM導入の経緯そして新たに開設される電子情報図書館においての将来展望及びCD-ROMの利用は研究と学問の新しい資源として非常に重要であり、利用希望者は潜在的に多いことがわかった。

以上、2題にわたって講演があった。

平成元年度 調査研究員の委嘱

平成元年度附属図書館調査研究室の調査研究員に、下記3名の教官が昨年度に引続き委嘱されました。委嘱期間はいずれも平成元年4月1日から同2年3月31日までです。

文 学 部：日野龍夫 教授
調査研究事項：「大惣本」目録索引作成

大型計算機センター：星野 聰 教授
調査研究事項：目録カードによる遡及入力の研究

大型計算機センター：金澤正憲 助教授
調査研究事項：遡及入力標準フォーマットの設定

昭和63年度附属図書館の利用概要

附属図書館は新館開館（59年4月）から5年目を迎え、機構面での課名変更、サービス面での外国学術図書（洋書）等の開架資料の拡充、AV資料の充実及び、利用者の為のオンライン目録検索の開始等、順次環境も整備されてきている。附属図書館では、毎年、図書館の利用実態把握の一つとして利用統計を分析し、様々な改善をはかる資料としている。この2～3年、統計上に大きな変化は見られず、一定した動きをみせている。

以下に昭和63年度の利用概要を紹介する。

1. 入館者

年間265日開館し、588,860人、一日平均約2,300人が入館した。特に2月24日には3,820人の入館者数を記録した。全体的に昨年度よりやや減少気味である。月別では2月が最も多く61,908人（一日平均約3,000人）であった。

時間帯では開館時間9～21時のうち、昼間（9～17時）が全体の83%を、特に12時から15時までの3時間に1日の38%の入館者が集中している。

入館者数の月別変動は、大学行事等の季節要因による。試験期である2月をピークに、6月、9月と入館者数は多く、時には閲覧席が確保できない日もあった。

【注】この数字は、利用証によってカウントされた人数で、他に十数%程の入館者がある。

2. 図書の貸出

開架図書と書庫内図書との貸出冊数の割合は84：16となっており、合せて77,129冊が41,101人に対して貸出された。全体として順調な伸びがみられ、特に開架図書の利用が目立つ。

開架・書庫内図書の貸出、雑誌・参考図書の一時貸出及び貴重書の閲覧総数は113,136冊であった。尚、全般的に自由接架による開架図書の増加や、複写設備の充実等により、把握できる対象は益々減少する傾向にある。

部局別では文学部が最多冊数（19,655冊）で貸出密度（貸出冊数÷登録者数）においても11.2冊と他学部よりも群を抜いて多い。次いで教育学部